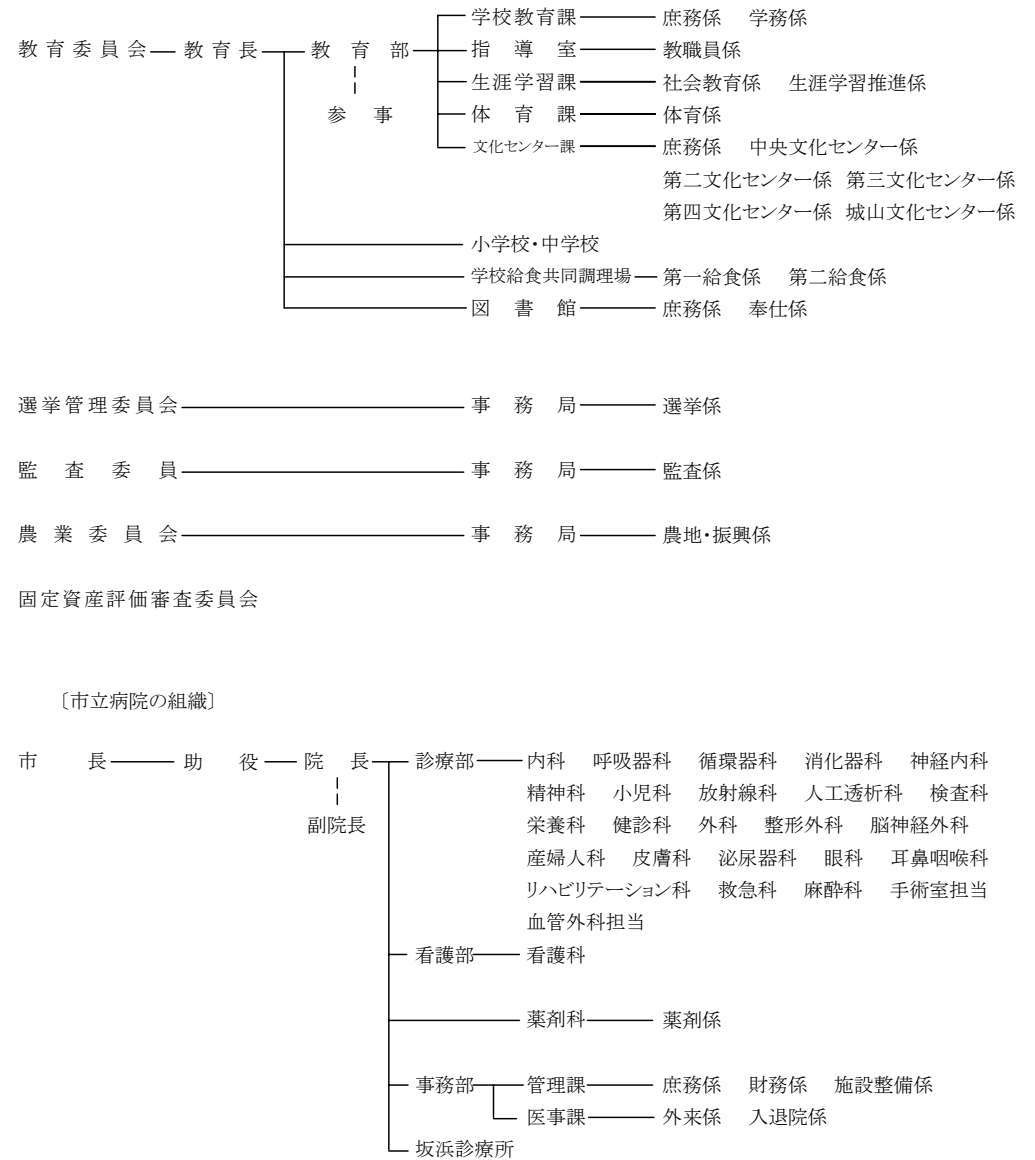
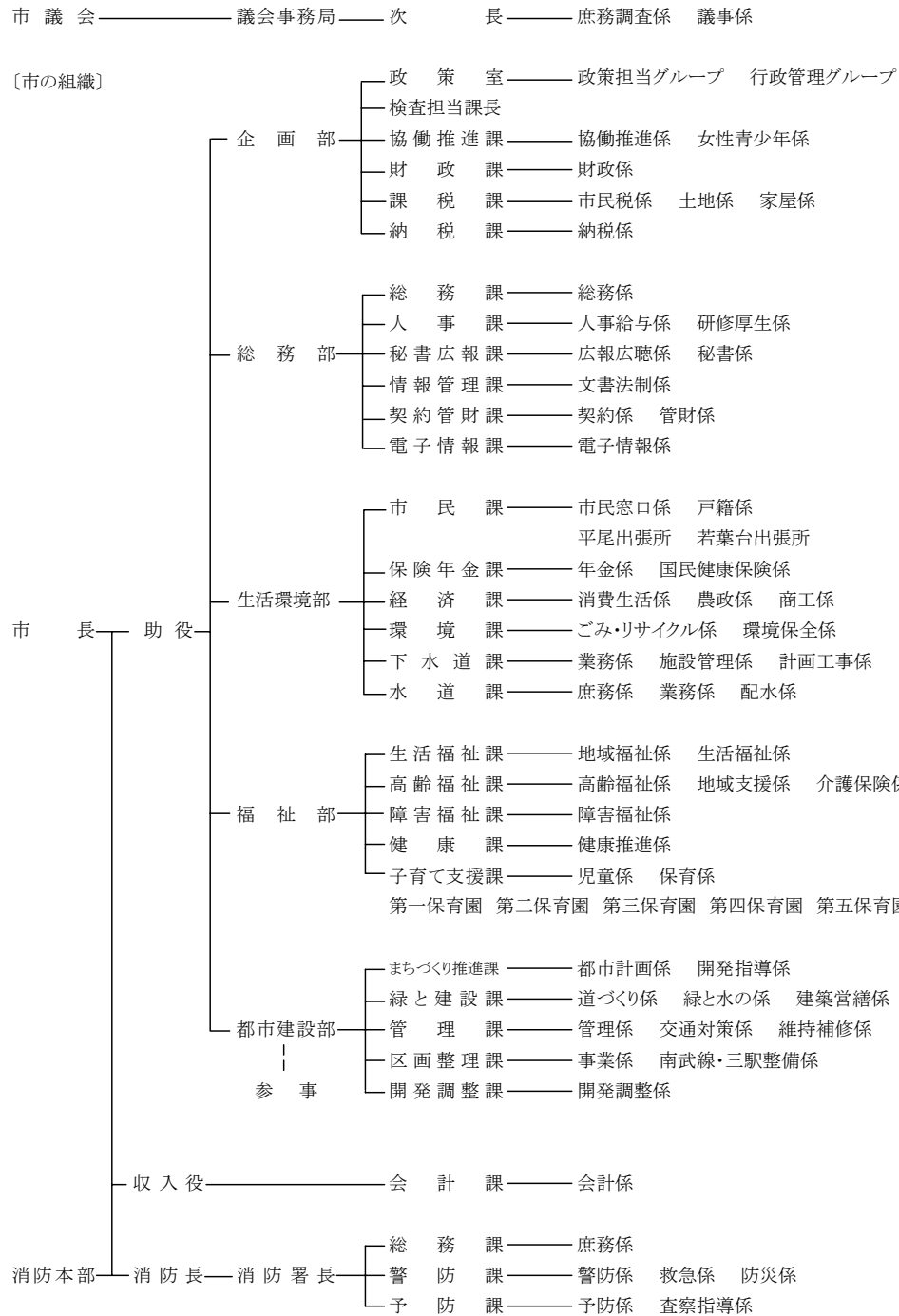


いなぎ データアラカルト

<p>出生者</p>  <p>1日あたり 2.1人 (17年度事務報告書)</p>	<p>死亡者</p>  <p>1日あたり 1.1人 (17年度事務報告書)</p>	<p>婚姻(届出件数)</p>  <p>1日あたり 2.0件 (17年度)</p>	<p>離婚(届出件数)</p>  <p>1日あたり 0.5件 (17年度)</p>
<p>転入者</p>  <p>1日あたり人15.2 (17年度事務報告書)</p>	<p>転出者</p>  <p>1日あたり人11.4 (17年度事務報告書)</p>	<p>1世帯あたり人数</p>  <p>2.43人 (19年1月1日現在)</p>	<p>人口密度</p>  <p>1km²あたり 4,366人 (19年1月1日現在)</p>
<p>市税負担額 (一般会計)</p>  <p>1人あたり153,494円 (17年度決算額)</p>	<p>予算(一般会計)</p>  <p>1人あたり325.113円 (17年度決算額)</p>	<p>図書館蔵書数</p>  <p>1人あたり4.6冊 (17年度)</p>	<p>公園面積</p>  <p>1人あたり11.4m² (18年4月1日現在)</p>
<p>市職員1人あたり市民</p>  <p>91人 (18年4月1日現在)</p>	<p>救急車出場回数</p>  <p>1日に 8.5件 (18年)</p>	<p>交通事故発生数</p>  <p>1日に 3.1件 (18年多摩中央警察の管轄内)</p>	<p>ゴミ(処理量)</p>  <p>1日あたり41トン (17年度)</p>
<p>し尿(処理量)</p>  <p>1日あたり 4kℓ (17年度)</p>	<p>水道(給水量)</p>  <p>1人1日あたり0.306m³ (ニュータウン区域を除く)</p>	<p>JR乗車人員(3駅)</p>  <p>1日あたり 19,948人 (17年度)</p>	<p>私鉄乗車人員(3駅)</p>  <p>1日あたり 22,741人 (17年度)</p>

行政組織



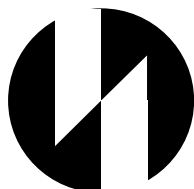
稲城市のあゆみ

明治22年	1889年	矢野口村、東長沼村、大丸村、百村、坂浜村、平尾村の六か村合併 稲城村誕生(人口 3,750人)	
	30年	1897年	村役場建設
大正10年	1921年	矢野口、東長沼の鶴川街道沿いに電灯がつく	
昭和 4年	1929年	南武鉄道(現、JR南武線)川崎 - 立川間 開通	
	10年	1935年	多摩川原橋開通
	14年	1939年	多摩火工廠(現、米軍多摩サーブス補助施設)設置
	24年	1949年	押立及び常久の一部が北多摩郡多磨村より編入、現在の市域となる
	32年	1957年	町制施行(人口10,125人、 2,036世帯)
	35年	1960年	簡易水道事業開始
	39年	1964年	多摩川衛生組合(ゴミ、し尿)設立
	40年	1965年	上水道事業開始、多摩ニュータウン都市計画決定
	41年	1966年	南武線複線化
	42年	1967年	町章(現市章)が決定
	45年	1970年	稲城消防署発足(職員19人、ポンプ車1台、救急車1台)、平尾団地入居開始
	46年	1971年	市制施行(人口36,800人、 11,999世帯) 多摩ニュータウン稲城地区事業承認、市立病院移築完成
	48年	1973年	中央文化センター開館、市の木(イチヨウ)、市の花(梨)制定
	49年	1974年	京王相模原線京王よみうりランド - 多摩センター間開通 上水道都営一元化、広報無線放送開始
	50年	1975年	稲城市基本構想策定
	56年	1981年	市制10周年(人口47,856人、 14,981世帯)、市民憲章制定、市庁舎完成 公共下水道着工、市立病院でCT装置が始動
	57年	1982年	保健相談所開設、福祉センター開館
	59年	1984年	市立病院窓口事務コンピューターを導入、 稲城市民憲章推進協議会発足、分別収集を開始
	60年	1985年	5月15日人口5万人に、下水道の供用開始
	61年	1986年	老人ケアセンター事業、デイ・ホーム事業開始、住民登録事務の電算化スタート
	62年	1987年	大丸親水公園完成、ニュータウン第一住区を向陽台と命名
	63年	1988年	向陽台入居開始
平成 元年	1989年	稲城生誕 100周年を迎える	
	2年	1990年	第二次長期総合計画「基本構想」策定、平尾地区の町界町名地番整理事業施行
	3年	1991年	市制20周年(人口59,154人、 21,304世帯) 稲城市平和都市宣言、北海道女満別町と姉妹都市提携 稲城中央公園総合グラウンド、野球場オープン
	4年	1992年	6月4日人口6万人に、第二次稲城市土地利用基本計画策定 総合体育館オープン、(財)グリーンウェルネス財団設立
	5年	1993年	矢野口、稲城長沼、南多摩駅周辺区画整理事業スタート、ごみ非常事態宣言
	6年	1994年	ニュータウン第二住区を長峰と命名
	7年	1995年	稲城大橋有料道路、稲城インターチェンジ開通、 チーム運営ホームヘルプサービス開始 長峰入居開始

平成 8年	1996年	長峰地区第二期入居開始
9年	1997年	第二次長期総合計画修正基本計画策定、保健センター開設、シルバーピア開設、南武線連続立体交差事業着手、BMX環太平洋選手権大会開催、
10年	1998年	ナイター照明付多目的広場が若葉台公園内に完成 是政橋・多摩川原橋の片側車線開通、クリーンセンター多摩川完成 新市立病院開院 稲城市消防団50周年、稲城市消防本部開設30周年
11年	1999年	若葉台入居開始 稲城市役所若葉台出張所開設、第二給食調理場開設
12年	2000年	「稲城市まちをきれいにする市民条例」制定
13年	2001年	稲城市制施行30周年(人口70,033人、28,186世帯) 第三次長期総合計画「基本計画」策定 クリーンセンター多摩川と市立病院間の余熱利用温水システム竣工
14年	2002年	稲城市循環バス「iバス」本運行開始
15年	2003年	はつらつワーク稲城開設
16年	2004年	市立病院アドボカシー相談室開設 「ふれんど平尾(旧第八小学校)」開設
17年	2005年	地域振興プラザ開館 南武線高架化第一期工事完了
18年	2006年	中央図書館開館・城山体験学習館開館 上谷戸緑地体験学習館開館 市立学校アドボカシー相談室開設 北海道大空町(女満別町と東藻琴村の合併により誕生)と姉妹都市提携

稲 城 市 章

(昭和42年10月14日制定)



いなぎの「い」を図案化したもので、円満な市政と、将来に向かって限らない発展を象徴しています。

CIシンボルマーク・ロゴ

(平成8年7月19日制定)



稲城市のCI活動推進のシンボルマーク。稲城の「i」を形象化し、楕円は梨に代表される豊かな実りを、曲線は稲城の自然を、全体で未来に向かって発展する力を表現しています。

市の木 イチョウ

(昭和48年11月1日制定)



苗木も入手しやすく植栽も簡単です。公害に強く、街路樹に適しており、品位もあることから市の木に選定されました。

市の花 梨

(昭和48年11月1日制定)



梨は、江戸時代・元禄期から栽培され始めたといわれており、現在も稲城市の特産物となっています。春には白い花が咲きます。

循環バスの愛称 「i バス」

あいバス

(平成14年9月)



稲城市循環バスの愛称は「i(あい)バス」です。市のイニシアル「i(あい)」と、愛バス、逢いバスの意味がこもっています。

稲城市民憲章

昭和五十六年十一月一日 制定

- 縄文の昔から緑豊かな多摩の横山と多摩川の清流にはくまれた私たちのまち稲城
- 私たちはこのまちに住み このまちを愛し
いつまでも平和で友愛に満ちた心のふるさと
稲城市を作るために、市民憲章を定めました。
- 市民ひとりひとりがこの憲章を心の道しるふとして
より豊かなまちとなるよう努力しましょう。
- 一 太陽と緑をたぎせしめて
 - 一 土の香りのあるまちを作りましょう。
 - 一 市民としての自覚をもち
 - 一 助け合って住みよいまちを作りましょう。
 - 一 年よりちよこどもをいたわり、
若く力を育つまちをしようしましょう。
 - 一 心身ともに健やか
 - 一 笑顔で働けるまちをしようしましょう。
 - 一 伝統を尊び、文化を高め
 - 一 未来に展望がもてるまちをしようしましょう。

稲城市平和都市宣言

平成三年三月七日 制定

- かけがえのないこの美しい地球を守り、世界の
恒久平和を願う人々の心は共通のものであります。
- 現行憲法に貫かれた平和の精神をもとに、非核
三原則を遵守し、世界の人々と手を携えて、人類
永遠の平和を築くことが私たちの責務です。
- 市民憲章の心を基本理念として、私たちは真の
平和と幸せを望み、このまちに住み、このまちを
愛し、いつまでも平和で友愛に満ちた心のふるさと
稲城をつくるために努力しています。
- ここに稲城市制定二十周年の年を迎え、平和入
の誓いを新たに決意し、稲城市が平和都市で
あることを宣言します。